

校長室には、様々な機能がある。校長が仕事をする執務室、校長がじっくり考えるための作戦本部、来客対応のための応接室、職員と協議するための会議室、生徒が相談にくるスペシャルルームなど、人と目的により、同じ部屋でも使い方がだいぶ変わる。

校長室に一番よく来る人というと、ダントツで教頭先生である。1日に何度も来てくれる。幸か不幸か、本校の校長室と職員室とは、けっこう離れている。慣れれば、さほどではないと言っても、行き来するのは骨が折れることである。

学年主任の先生も、毎朝、必ず来てくれる。その日の欠席状況を報告してくれる。何でもそうだが、毎日やり続けるというのは、エネルギーのいることである。この学年主任の先生には、責任感と思いがある。いつも頭が下がる。

事務の先生も、よく来てくれる。校長室は2階、事務室は1階である。にもかかわらず、わざわざ来てくれる。丁寧な方である。直接話すので、スムーズに事が進む。非常にありがたい。信頼できる仕事ぶりである。

事務職員の方も、毎朝来てくれる。その日のスケジュールを伝えて、給食の検食ができるかどうか、出張に出かける時間はいつ頃か、来客の予定などを確認する。この方は、本校の受付窓口である。重要な役目である。

毎日、入れ代わり立ち代わり、先生方がやってくる。報告であったり、相談であったり、その度ごとに内容が違ふ。耐火書庫があるため、その用事で来る先生もいる。数えてはいないが、毎日、延べ何人の先生方が校長室に来ているだろうか。けっこう忙しい。

ときには、卒業生である現役高校生がやってくることもある。律儀に、これから行きますと電話をよこしてから来る。近況報告と、たいてい相談事がついてくる。大事な進路の相談もある。あてにしてもらえるのはありがたいが、責任重大である。彼らには、いつも正面から向き合うようにしている。

親子で来てくれる卒業生もいる。この「校長室だより～燦燦～」の読者である。紙面にも登場していただいたことがある。「カウンターのイス」「高校の教科書」の親子である。いつも、進路相談から始まり、ベラベラと、つつい調子に乗って話してしまう。妹さんが、中学3年生で、この春卒業となった。姉妹お二人の充実した高校生活、そしてご家族の幸せを願うばかりである。

初めて校長室に入った生徒は、「うわあ」と、みな同じような反応をする。学校の中でも、特別な位置づけなのであろう。確かに、他の部屋とは雰囲気が違う。いろいろなものが飾ってある。置き物もある。ソファに座ると、みなうれしそうである。どうやら、特別なソファに見えるらしい。

校長室清掃担当の3年生には、大変お世話になった。旧型の重く使いづらい掃除機をかけてもらった。テーブルや棚、ガラスも拭いてもらった。ときには、飾ってある盾やトロフィをきれいにしてもらった。

校長室は、一人でも過ごせるし、人が集まることもできる空間である。もし、学校に校長室がなかったとしたら、どうだろう。だいぶ展開が変わってくる。校長室という特別な部屋には、計7年もの間、お世話になった。自分を成長させてくれた部屋である。感謝したい。